



平成31年 1月



本の中に出てくる食べ物や食材が、1/17(木)の給食に登場します。

1/17の献立

おむすび(わかめ・おかか)
ししゃも利休焼き、
筑前煮、豆腐汁、牛乳

紹介した本は
学校図書館で展示中。
借りられます!



おむすび(おにぎり)

献立表の一口メモにもあるように1月17日は「おむすびの日」。コンビニエンスストアで売られるようになり、手軽なファストフードのイメージも定着しましたが、手で結んだ(握った)おむすび(おにぎり)は特別なおいしさがありますね。『にっぽんのおにぎり』(白央篤司 著/理論社 刊)、1ページに都道府県のご当地おにぎりの写真が1つどーんと載っていて、見るだけでとても楽しい美味しそうな本です。愛知県なら「天むす」、福岡県なら「辛子明太子」といった具合。

そこで問題です。このおにぎりはどこの県のものでしょうか?

- ① ネギ味噌 (有名なネギの産地があります)
- ② 梅干し (定番中の定番ですが、梅の産地とえば?)
- ③ 豚角煮 (中国風の豚角煮は、しっぽく料理のひとつ)

製作者◎ 印刷◎ 監修◎ … 埼玉

ちくぜんに 筑前煮



『キネマの神様』

原田マハ 文藝春秋

「キネマ」は「キネマトグラフ」の略で「映画」を意味する言葉です。皆さんは「シネマ」という言葉のほうになじみがあるかもしれませんね。

「キネマ」というとちょっと懐かしい、昔風な感じがしてきます。

この本の主人公は39歳の女性、円山^{あゆみ}歩。大企業の映画館誘致プロジェクトを束ねる課長にまで昇進していたのに、その会社を辞めてしまいます。彼女にはマンションの管理人として働く両親がいますが、このお父さんがなかなか困った人で、麻雀や競馬などの賭け事が好き、しょっちゅう家を空けたり借金をつくったり。彼女が無職になったタイミングで、^{しんきんこうそく}心筋梗塞で倒れ入院、多額の借金が発覚します。家族は先の見えないところから話はスタートします。

ただ、このお父さん、ゴウさんは憎めないキャラクター、そして強運の持ち主。若いころから本当にたくさんの映画を観ていて、父と娘は映画でつながっています。79歳のゴウさんの思いがけない行動をきっかけに、歩は映画雑誌のライターに採用されます。ゴウさんの活躍もあり、傾いた会社や閉館目の映画館に奇跡が起きるのです。

「筑前煮」はゴウさんの好物で、元気がないときお母さんがさりげなく夕食に作っていました。映画に対する思いがゴウさんも家族の危機も救います。作中の映画の批評は実際の映画のもの。映画はよく知らなくても、家族の物語として、お仕事小説として十分楽しめます。

